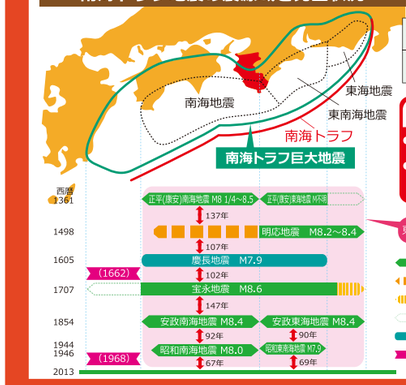
御坊市 北部 津波防災マップ

2014年 保存版

南海トラフ地震の震源域と発生状況



南海トラフの地震の長期評価

平成25年5月現在(地震調査研究推進本部発表)

地震規模	M8～9クラス
30年以内の発生確率	70%

最大クラス(M9.1)の地震は…

- 過去数千年間に発生したことを示す記録は見つかっていない。
- 繰り返し起きている大地震（南海地震等）に比べ、発生頻度は一桁以上低いと考えている。

目 次

- マイマップを作ろう
- 地震・津波について知ろう
- 非常時の持ち出し品・連絡方法など
- 地震・津波から身を守るポイント
- もし津波がきた時の避難先
- 自主防災活動のすすめ
- みんなで助け合う防災活動のすすめ

津波ハザードマップとは？

津波ハザードマップとは、津波災害時における被害を最小限度にくい止めることを目的とし、予想される浸水の程度や避難情報等の各種情報を分かりやすくマップに表示して、緊急時の避難に役立てるものです。

御坊市

地震・津波について知ろう

地震による揺れと被害

南海トラフ巨大地震が発生したとき、御坊市は震度７の揺れが予想されます。

南海トラフ地震時の予想震度!!

- **震度5弱**：多くの人が身の安全を守ろうとする。家具が移動したり、窓ガラスが割れることもある。
- **震度5強**：多くの人が強い恐怖を抱き、行動に支障を感じる。タンスなどの重い家具が倒れることがある。
- **震度6弱**：立っていることが難しくなる。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下してドアが開かなくなる。
- **震度6強**：立っていられず、はわないと動くことができない。重い家具のほとんどが倒れ、戸がはずれて飛ぶ。
- **震度7**：自分の意思では行動できない。大きな地割れや地すべり、山崩れが発生する。

津波の高さ・浸水の深さとは？

裏面のマップには浸水深を表示しています。津波高さや海抜との関係に注意が必要です。

- **津波高**　津波がない場合の潮位 (T.P.) と、津波により上層した海面の高さとの差
- **浸水深**　地面から浸水域の水面までの高さ

津波注意報・津波警報とは？

津波による災害の発生が予想される場合、気象庁が発表します。
気象庁は、地震が発生すると地震の規模や位置をすぐに推定して沿岸で予想される津波の高さを求め、**地震発生後２～３分**を目標に、**大津波警報**、**津波警報**または**津波注意報**を津波予報区単位で発表します。

警報・注意報の分類	発表基準及び津波の高さ予想区分	予想される津波の高さ	
		数値での発表	定性的表現での発表
大津波警報	10m ～	10m 超	巨　大
	5m ～ 10m	10m	
	3m ～ 5m	5m	
津波警報	1m ～ 3m	3m	高　い
津波注意報	0.2m ～ 1m	1m	（表記しない）

※津波警報・注意報を発表した場合、津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどを津波情報でお知らせします。

地震・津波から身を守るポイント

津波時の基本的な避難の流れ

地震・津波の発生時は、以下の基本的な避難の流れを参考に、冷静な行動を心がけましょう。

地震発生後 0分　地震発生

落ち着いて身を守る

地震揺れおさまる

地震発生後 5~10分　避難開始

避難活動開始の判断　デマに惑わされず正しい情報収集

- ラジオ、テレビ、防災行政無線等

とにかく避難	状況判断	
●強い揺れを感じた場合 ●大津波警報 ●避難勧告命令 ●避難指示命令	●津波注意報発表	●津波の恐れなしの発表 ●海面変動があるかもしれないが被害心配なしの発表 **とりあえず津波避難不要**

避難活動開始　非常時持出し品が入った袋 ※予め用意

津波到達時間までに浸水エリア外へ徒歩で避難可能か？

- YES → **徒歩で浸水エリア外へ避難**
- NO → **津波到達時間までに徒歩で避難先へ避難可能か？**
  - YES → **徒歩で避難先へ避難**
  - NO → **車等で浸水エリア外へ避難**

地震発生後 10~分　避難場所に到着

避難完了　地震・津波の情報収集 家族などの安否確認

確認
- 津波警報・注意報解除？
- 避難勧告解除？
- 津波被害の恐れなし？
- 自宅・地域の安全が確認された？

YES → 安全が確認された避難所に避難
NO → 家族や津波警報等の情報に注意する

避難の解除

まず身の安全を
壊れやすい戸棚や本棚からすぐ離れ、丈夫なテーブルや机の下に身をかくす。

すばやく火の始末
余裕があれば、ガスコンロやストーブ等の火やブレーカーの主電源を完全に切る。

戸を開け出口を確保
揺れによって戸やドアなどが開かない時がある。

火が出たらすぐ消火
大声で近隣の応援を求めながら、初期消火を行う。

避難行動を指示する言葉を知っておく
地震や津波などの災害時に、次のような避難行動を指示する情報が発表されます。

危険度 低	危険度	危険度 高
① 避難準備情報	② 避難勧告	③ 避難指示
避難行動に時間を要する場合、避難行動を開始する。	災害が発生する恐れがあるため避難行動を開始する。	被害の危険が目前に切迫していたため直ちに避難行動を開始する。

外へ逃げるときはあわてずに
落ち着いた行動を。ガラス破片や瓦など足元にも注意する。

狭い道やブロック塀には近づかない
ブロック塀や門柱、自動販売機などの転倒に注意。

がけ崩れに注意
もろい地盤のがけは崩れやすいため、異常を感じたら素早く避難。

高い場所へ直ちに避難
海岸から「より遠く」ではなく「より高い」場所へ。

津波は繰り返し来る
波が落ち着くまで避難すること。

満潮のときは要注意
満潮時は水位が高くなっているため被害が大きくなる。

海岸・河川に近づかない
注意報、警報が解除されるまで海辺や河川に近づかない。

協力し合って応急救護
近隣で声をかけ合い安否の確認をする。
ケガ人が出れば地域ぐるみで応急処置をする。

過去の教訓・・・

津波避難、車を使っても小走り程度!?
東日本大震災では、全体の６割近い方が車で避難し、その多くの方が途中、**渋滞や路面崩壊などの通行障害で身動きがとれず**、津波にのみ込まれてしまいました。
結局、**車で避難しても小走り程度**の速度でしか進めずその内４割の人は**歩きで行ける 1km 以内の場所に避難**していた事が国土交通省の調査で明らかになっています。

自主防災活動のすすめ

自助・共助・公助とは？

自助・共助・公助は、防災対策・災害対応を考えるうえでの基本理念です。それぞれの役割を明確にし、連携することが減災と早期復興のために必要なことです。

「自分の身の安全は自分で守る」が一番の基本。これを念頭に日頃から自分・家庭で出来る限りの防災対策をしておくこと。

自助　一人ひとりが自分自身を災害から守ること

ハザードマップの作成、避難場所・物資の提供、インフラ整備、ライフラインの復旧などの全体を包括した支援を行う。

共助　地域や近隣の人々と助け合ってお互いを災害から守ること

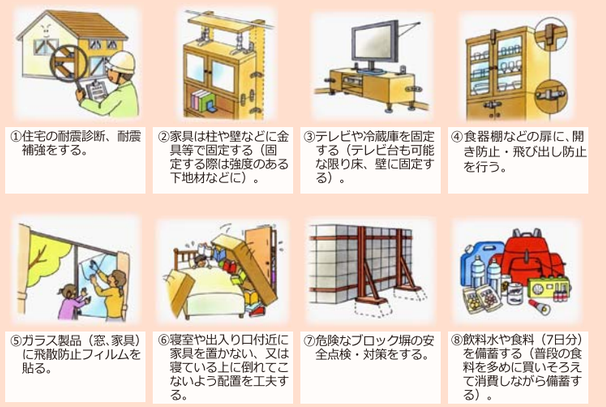
日頃から、地域で行われる防災訓練や自主防災組織など、地域と積極的に係ってコミュニケーションを図っておくことが大切。

公助　国・県・市町村などの行政が住民を災害から守ること

連携

【自助】各家庭で取り組む防災活動

家庭でできる防災対策が、地震の際に大きな力を発揮します。皆さんの家は大丈夫ですか？



①住宅の耐震診断、耐震補強をする。
②家具は柱や壁などに金具等で固定する（固定する際は強度のある下地材などに）。
③テレビや冷蔵庫を固定する（テレビ台も可能な限り床、壁に固定する）。
④食器棚などの扉に、開き防止・飛び出し防止を行う。
⑤ガラス製品（窓、家具）に飛散防止フィルムを貼る。
⑥寝室や出入り口付近に家具を置かない、又は寝ている上に倒れてこないよう配置を工夫する。
⑦危険なブロック塀の安全点検・対策をする。
⑧飲料水や食料（7日分）を備蓄する（普段の食料を多めに買いそろえて消費しながら備蓄する）。

あなたの家は大丈夫でしょうか？
地震から大切な命を守るため、住まいの耐震性をチェックし、耐震補強をしましょう。
（平成20年和歌山県内の住宅の耐震化率70%、平成23年家具の固定率39.8%）

マイマップを作ろう

地震はいつ起こるかわかりません。いろんな場面において地震や津波が起きた場合に備えて、家族みんなの**避難先**を確認しておきましょう。
また、本紙裏面の地図に、自分が避難する場合を想定した避難情報を書き加えて、より具体的な避難行動をイメージできるようにしておきましょう。

マイマップの作り方

- **避難先**　裏山、高台、公園など一時的に身を守るため緊急避難する場所

マイマップの記入例（裏面ハザードマップ）

1.避難先を決める
ハザードマップで自宅や学校、勤務先等の場所をチェックして、その場所から避難すべき場所を地図上と防災メモ欄に書き込みます。また、家族が別々の場所に避難した後、最終的に集合する場所も決めておきましょう。

2.避難経路を決める
それぞれの場所への避難経路と避難にかかる時間を地図上に書き込みます。

3.避難経路の危険箇所を確認する
実際に避難経路を歩いてみて危険箇所がないかチェックして地図上に危険箇所の場所を記入し、右側の危険箇所リストにも書き留めておきます。
※危険箇所があった場合は回避経路を考えます。

4.家族全員や地域の皆さんと避難訓練をしましょう
みんなで情報を共有しながら避難にかかる時間をお互いに確認し合い、新たな情報があれば地図上に書き込んでいきましょう。

非常時持ち出し品・連絡方法など

非常時の持ち出し品チェックリスト

家庭の事情にあわせて、非常時に持ち出すものをあらかじめ準備しておきましょう。

貴重品
- □ 現金 (公衆電話用に 10 円硬貨も)
- □ カード類
- □ 印鑑
- □ 免許証
- □ 権利証書
- □ 健康保険証
- □ 貴金属類
- □ 鍵 (自宅・車など)
- □ 住所録のコピー

飲料水・非常食
調理せずにそのまま食べられるもの
- □ ミネラルウォーター (缶入り、ペットボトル)
- □ 缶詰・乾パン・クラッカー
- □ スプーン・フォーク
- □ 皿・コップ (紙、プラスチック製)

【幼児用に】
- □ 離乳食・粉ミルク (哺乳ビンも)

【ペットがいる場合】
- □ ペットフード (缶詰など)

応急医薬品
薬品は湿度や湿度が高いところでは変質する場合もあるので、保管に注意しましょう
- □ 絆創膏
- □ ガーゼ・包帯・三角巾
- □ はさみ・ピンセット・刺抜き
- □ 消毒薬・脱脂綿
- □ 傷薬
- □ 風邪薬・胃腸薬
- □ 鎮痛剤・解熱剤
- □ 目薬

【持病のある方は】
- □ 常備薬（　　）

情報・照明
- □ 携帯ラジオ
- □ 懐中電灯 (できれば 1 人に 1 つ)
- □ 予備の乾電池 (多めに)
- □ 携帯電話 (充電器も)

生活用品
- □ ヘルメット・防ずきん
- □ マスク・ゴーグル
- □ 軍手・ゴム手袋 (厚手のもの)
- □ 雨具 (かさ・レインコート)
- □ ホイッスル (居場所や危険を知らせるため)
- □ 上着類 (防寒用)
- □ 下着類 (着替え用)
- □ タオル・ハンカチ
- □ ティッシュペーパー・ウェットティッシュ
- □ ライター・マッチ
- □ ナイフ (万能ナイフ)
- □ ビニール袋

【女性・幼児・お年寄り用に】
- □ 生理用品
- □ 紙おむつ

【目・耳の不自由な方は】
- □ 眼鏡・コンタクトレンズ (洗浄・保存液も)
- □ 補聴器

非常時の連絡方法・情報収集

連絡や情報収集の手段は様々なものが利用できます。あらかじめ知っておきましょう。

電話・携帯電話より

- **NTT 災害時伝言ダイヤル 171**
  災害時、家族や友人に安否の連絡や確認ができます。

- **防災わかやまメール配信サービス**
  県内の気象情報や地震、津波の警報、注意報、避難勧告、台風、雨量、ダム放流など、様々な情報を電子メールで配信します。ただし、事前に下記からの登録が必要です。

配信サービス登録用QRコード
[regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp]
上記アドレスにそのままメールを送信してください。
（件名・本文は不要）

テレビ・ラジオより

- **緊急地震速報**
  地震の揺れの警報・予報が報知音と共に速報されます。
  地震発生後は、津波予報等についてもアナウンスされます。

防災行政無線

- **御坊市防災行政無線**
  市内 98 ヶ所に防災行政無線放送の施設を設置しており、警報発令などの気象情報や行政からのお知らせを放送しています。また、下記からの内容確認もできます。
  ①電話で放送内容を確認できます
  TEL:0738-22-9990
  ②テレビ和歌山（5 チャンネル）のデータ放送（リモコン d ボタン）で放送内容を確認できます。

インターネットより

- **御坊市ホームページ**
  下記アドレスより御坊市の災害情報を随時発信しています。
  http://www.city.gobo.wakayama.jp/

スマートフォンのアプリより

- **イサナドットネット「逃げナビ～和歌山防災～」**
  県内の避難先を地図上で検索できるアプリです。
  下記アドレスにアプリの内容が紹介されています。
  http://bosaiapp.jp/

もし津波がきた時の避難先

御坊市内の避難先リスト

以下の避難先は、津波が発生したときに緊急的に避難できる場所です。裏面のマップとあわせて、避難先を選びましょう。

地区	名称	安全レベル	海抜(m)	避難可能階数	避難可能人口(人)
御坊	日高川ハイツ バラ棟	★★	3.6	3F以上	90
御坊	日高川ハイツ にじ棟	★★	3.6	3F以上	140
御坊	日高川ハイツ あじさい棟	★★	3.6	3F以上	340
御坊	日高川ハイツゆり棟	★★	3.6	3F以上	220
御坊	津波避難タワー(平成26年度完成予定)	★★	5.4	2F以上	800
御坊	グリーンハイツ 秋桜棟	★★	5.5	3F以上	110
御坊	グリーンハイツ すみれ棟	★★	5.5	3F以上	450
御坊	グリーンハイツ カトレア棟	★★	5.5	3F以上	160
御坊	グリーンハイツ すずらん棟	★★	5.5	3F以上	390
御坊	グリーンハイツさくら棟	★★	5.5	2F以上	300
御坊	西日本電信電話㈱御坊別館ビル	★	3.2	4F	340
御坊	福祉センター	★★	3.4	3F以上	340
御坊	御坊市商工会館	★★	3.4	3F以上	850
御坊	ジョーシン御坊店	★★	3.3	3F以上	300
御坊	御坊市中央公民館	★★	3.2	3F以上	250
御坊	御坊小学校	★★	3.2	3F以上	1,840
御坊	勤労青少年ホーム	★★	3.5	2F以上	250
御坊	税務署職員寮	★★	4.8	3F以上	150
御坊	日高高等学校	★★	4.8	2F以上	1,700
御坊	御坊中学校	★★	5.3	2F以上	2,270
湯川	オークワ ロマンシティ御坊店	★★	4.0	2F以上	5,000㎡
湯川	財部会館	★★	3.5	2F以上	110
湯川	湯川幼稚園	★★★	5.9	1F	640
湯川	湯川小学校	★★★	6.1	1F	680
湯川	湯川コミュニティセンター	★★★	6.0	1F	120
湯川	紀央館高等学校	★★★	6.1	1F	930
湯川	湯川中学校(グラウンド)	★★★	6.8	–	–
湯川	丸山 宮山	★★★	24.1	–	–
湯川	丸山 西山	★★★	30.2	–	–
湯川	湯川文化会館	★★	3.0	2F以上	50
藤田	吉田八幡神社	★★★	33.9	–	–
藤田	藤田会館	★★★	6.5	1F	290
藤田	藤田コミュニティセンター	★★★	7.5	1F	110
藤田	藤田小学校	★★★	8.8	1F	900
藤田	大成中学校	★★★	18.0	1F	4,300
野口	野口会館	★★★	8.5	1F	120
野口	野口コミュニティセンター	★★★	8.5	1F	90
野口	野口小学校	★★★	17.9	1F	940
野口	古森区集会所	★★★	13.5	1F	50
野口	岩内会館	★★★	11.0	1F	70
野口	熊野会館	★★★	12.5	1F	110
塩屋	河南中学校	★★★	11.5	1F	1,370
塩屋	正徳大学元禄技術総合研究所職業センター跡地	★★★	30.9	–	–
塩屋	北塩屋 上の芝高台	★★★	19.4	–	–
塩屋	北塩屋 六豆山	★★★	34.0	–	–
塩屋	王子神社	★★★	14.5	–	–
塩屋	関西電力(株)社宅前駐車場	★★★	11.5	–	–
塩屋	御坊総合運動公園駐車場	★★★	17.0	–	–
塩屋	森岡会館	★★★	15.5	1F	60
塩屋	須佐神社	★★★	20.0	–	–
塩屋	猪野々会館	★★★	5.0	1F	50
塩屋	明神川会館	★★★	19.5	1F	60
塩屋	明神川 春日山	★★★	37.0	–	–
名田	祓井戸会館	★★	11.0	2F以上	80
名田	野島会館	★★★	16.0	1F	100
名田	加尾会館	★★★	20.2	1F	120
名田	国立和歌山高専	★★★	17.5	1F	2,280
名田	名田幼稚園	★★★	18.7	1F	620
名田	名田小学校	★★★	22.4	1F	1,150
名田	名田中学校	★★★	56.8	1F	720
名田	楠井会館	★★★	15.0	1F	60

避難先安全レベル３（★★★）…南海トラフ巨大地震想定並びに３連動地震想定において浸水が予想されない避難先。
避難先安全レベル２（★★）……南海トラフ巨大地震想定においては浸水すると予想される区域内にあるが、３連動地震想定においては浸水が予想されない避難先。
避難先安全レベル１（★）……南海トラフ巨大地震並びに３連動地震想定において浸水が予想される区域内にある避難先。

みんなで助け合う防災活動のすすめ

【共助】自主防災組織を作って災害時に備えよう

災害発生時の初期対応に大変有効なのが、地域の人々で作る**自主防災組織**です。
「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という意識をもって自主防災組織を結成し、地域が一体となって日頃から継続的に防災活動を行うことが大切です。

自主防災組織の日常活動

○地域の防災意識の向上
- 地域行事やイベントでの防災知識の普及・啓発
- 自治会の会合などでの防災についての話し合い
- 防災知識に関するチラシやパンフレットの作成

○地域における危険箇所等の把握
- このハザードマップなどを活用し、津波やがけ崩れ、避難路における危険箇所を把握し「マイマップ」を作成
- 地域内の消火栓や防火貯水槽などを確認

○防災訓練の実施
- 災害時に効果的な防災活動が行えるよう、地域の実情に基づき、消火訓練、救出・救護訓練、避難訓練などを定期的に実施

災害時要援護者への配慮と対策

- **災害時要援護者**　高齢者や障がい者、乳幼児、妊産婦の方など、災害時に自力での避難が困難で、周囲の人々からの支援を要する方。

○地域の防災意識の向上
- 以下のような視点から周囲の状況を確認しておく
  ⇒車イスでも避難路を通れるか
  ⇒放置自転車等の障害物がないか
  ⇒外国人にもわかる標識が出ているか
  ⇒目や耳の不自由な方への警報、避難勧告の伝達方法が確立されているか
  など

○地域の援助体制を具体的に決める
- 自主防災組織が中心となって、災害時要援護者に対する援護体制を決めておく

○災害時の避難誘導と安否確認体制
- 近所に災害時要援護者に当たる方がいないか日頃から確認し、災害時には近所の人たちで安否を確認し、一緒に避難できるような体制を整えておく